

赤羽別院報 第2号

発行所 真宗大谷派 赤羽別院 親宣寺
発行人 野々山洪美
愛知県幡豆郡一色町赤羽上郷中14
Tel. Fax. (0563) 72-2308
印刷/株教育広報センター

謹賀新年

掲示板

いつも誰かから お世話になっている
いつも誰かに 迷惑をかけている
西尾市安楽寺掲示板より



シリーズ

人間模様

②

西尾市高島町 土井てい子さん

「仏ほつとけでは済まされない、真宗はきびしいですね。だからこそ味わいがあるんです」とおっしゃる土井さんは、長年本山や児童教化連盟(児連)などで活躍されてこられた。そうした歩みと、長女の死やご自分の大病を経験するなかで見えてきたものは・・・娘さんを亡くされてからの経緯をお聞かせください。

土井 あらゆる本を読み、お話を聞いても納得がいかない。悶々とした日々が十年くらい続きました。その頃、本山特別伝道のお誘いがあった、なにも知らないまま参加したんです。それが私にとつての大きな縁でした。その後、研修会や法座によく出向いて行かれるんですか。

土井 多くの人たちとの出会いが私にとつての学びであります。子どもが好きで、本山の子ども奉仕団や教区の児連のお手伝いもさせて頂きました。

土井 物忌みをしたくないことですが、現在、課題とされていることがございますか。



土井 真宗の教えに安切でしょうか。
土井 真宗の教えに安切でしょうか。
土井 真宗の教えに安切でしょうか。

心感を覚えるんです。聞かせてもらって問いが深まる。自分があるさまになると言うか、そんな感じですね。
今後の夢、目標などをお聞きしたいのですが。

土井 孫が三人いるんですが、孫たちと一緒に勤めができる家族そろってお勤めできることが楽しみです。そして、仏恩報謝の気持ちで大事にして育ててほしいですね。それと、子ども奉仕団の引率をすることで。なんか孫のことばかりです。

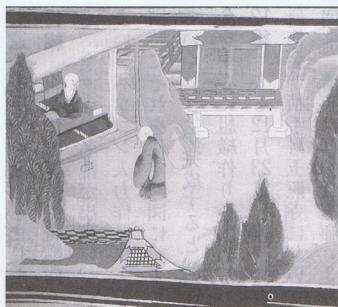
蓮如絵伝を読む(2)

蓮如上人の修学

碧南 青木 馨

蓮如上人は、十七歳の時に親鸞聖人や代々の例にならって粟田口青蓮院で得度され、天台宗の僧侶として学業に励まれることになりました。しばらくは比叡山北谷で苦学されましたが、その頃の話として絵伝には近江金森弥七(後の道西坊)が慰問に訪れているところが描かれています。

あまりにみすばらしい姿に、弥七は驚きと悲しみを禁じ得なかつたのでした。そして持参したハツタイ粉(麦粉)と麦茶を差し上げると、大変に喜ばれ一緒に食したのです。
ちなみに道西は蓮如上人の最も早い時期の門弟の一人で、寛政二年(上人四十七歳)最初の御文(筆始めの御文)をこの道西坊にあたえられたのでした。



また蓮如上人は、比叡山に続いて南都(奈良)興福寺へも修学されたと伝えられ、これにより日本仏教の二大本山で学ばれたことになり、上人の仏教があくまで正当なものであることを示しております。
事実は、上人は二十七歳頃結婚されているようで、その頃迄学ばれたのか不明ですが、四十三歳の継職迄の真宗聖教の書写本が多数伝来しており、上人の修学の姿勢が窺われます。

赤色赤光

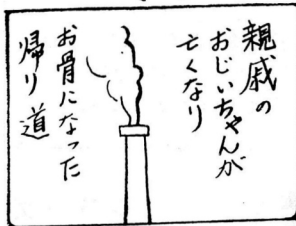
年の瀬からお正月を迎える頃になると、何とも奇妙な気持ちになる。その原因の一つは忘年会にあるようだ

週末ともなれば、随所でその風景を見ることが出来る。酒を飲み、ご馳走を食べ、カラオケを歌うおきまりのコースである。今年あった厭なことは、全て忘れて、新しい年を迎えたいと願う庶民の素朴な感情だと割り切ってしまうのであろうか
日本人の歩んできた歴史を振り返ると、何とも釈然としないものを感じる。問題は何でも水に流そうとする文化、過去を振り返らず、原因を究明することなく「まあまあ」で納めてきた日本人の考え方にある
戦後五十年経過した今「いつまで昔のことを言っているのか、新しい時代に向かって前向きに取り組まなければ」という声が増強しに強くなっている。本当に過去は検証されているのであろうか
▼やれ忘年会だ、クリスマスだとはしゃいでいる十二月に、アウシュビッツ収容所に次いで原爆ドームが世界遺産に登録された意味は大きい
▼一体、十二月八日とはいかなる日であったのか。日本人が経験し、そして犯してきた一切の事実を、後の人に間違いなく伝える責任が、現代を生きる全ての人にあると思う
▼そういうえば、あの家永三郎さんが教科書裁判の一切の資料を公に残すと言われたのも、同じく十二月であった。(O)

ゴボちゃん

Y.H.

その2



ウォッチング

お葬式

クローズアップ

「葬式仏教」という言葉も最近聞かれなくなつてしまった。仏教教団はもはや批判するにも値しないということだろうか。なんだかそれともさみしい。

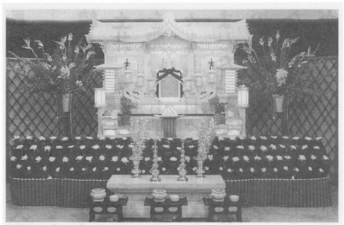
葬式と法事という死者儀礼のみを行う宗教があるとするれば、それは大変いびつなものだ。現代人はそれをなんともしなくなつてしまつたのか。

日本人のこのような精神状況が生まれたも

現場からのレポート

某月某日
—とある葬儀式場にて

参列者は全員礼服装姿であり、黒一色の様相である。そのせいか、正面の祭壇を見上るとその飾り付け、荘厳の様子が極めて華やかに見える。その代表格は祭壇両側に彩られた花壇であろうか、更に御供物として季節の果物



が色どりを添えている。壇の中央に亡くなった方の顔写真があり、モノクロの割に目立つのは下段の棺を覆っている絨爛る豪華な七條袷と真紅に染った修多羅のせいだろう。写真の上段には括られたような絵像本尊が、何か遠慮がちに吊るされていて、うっかりすると見落しそ

現代「葬儀」考

とをたどると、明治時代の宗教政策にまでさかのぼる。国家神道を「公」とし、仏教等は「私」的なもので、祖霊崇拜と葬儀の執行を主な役割とした。まさにその延長線上に私たちの宗教観

教で葬式を行うというようにバラバラになれば、葬式は形骸化し、宗教的意味を失う。葬式もまた、華美で形だけのものが出現する。そこでは世間体が先行し、宗教としての生の意味を問うこともなく、しみじみと人の死を悼み遺族の悲しみに寄り添うことさえ疎かになる。(U)



真宗大谷派前門首の葬儀

「真宗」の葬儀べからず集

- ・日柄を選ばない。
- ・線香は立てて用いない。
- ・一膳飯を供えない。
- ・棺に刀・かみそりを置かない。
- ・木魚は使わない。
- ・百万遍はしない。
- ・喪主は焼香以外に立たない。
- ・永眠・天国・冥福・御霊前などの言葉は使わない。
- ・鳩を放つことはしない。
- ・火葬場への行き帰りの道をわざわざ変えない。
- ・清め塩は用いない。
- ・お骨をお内仏の中に置かない。

「当然のエチケット」

- ・葬儀終了まで生花は取らない。
- ・式中に私語をしない。
- ・葬儀が終わるまで帰らない。

各地の催し

- 8組 毎月9日は「本山講」を勤修(法話有)。2月花蔵寺の慶昌寺、3月善明の善徳寺、4月室の順成寺。是非ご参詣を。
- 9組 12月に組の御遠忌委員会が発足。教区の取り組みを受ける形で新たな教化事業も若院会を中心に検討中。乞御期待。
- 10組 お内仏にお備えする仏華の稽古を1月25日、2月8日、2月22日に行います。また蓮師御遠忌委員会を設置しました。
- 11組 組全体の檀信徒組織作りも、全ヶ寺の名簿が出揃い、いよいよパソコン入力作業に入る。同時にそれを住宅地図に記入していく。これが完成すると、門徒会を中心に組織作りを始める。
- 12組 去る12月23日、組門徒会研修会が横手町玉照寺において開催。講師は戸松政憲師。3月28日、5月24日にも開催予定。
- 13組 「青壮年の集い」を開催。一月十八日(養林寺)、二月二十二日(明栄寺)、三月十五日(隆勝寺)、夜七時、石川易師

赤羽別院紹介

- ◆1月22日、2月19日、3月12日 聖典学習会 桜部 建師
- ◆1月17日、2月14日、3月14日 真宗講座 亀井 鑑氏
- ◆1月1日 修正会
- ◆1月14日・15日 双全講
- ◆毎月28日 辰朝に法話あり
- ◆3月17日・23日 春季彼岸会
- ◆4月11日・12日 報徳会

「赤羽御坊」協賛者名

- ▼岡崎教区会議長小谷香示▼岡崎教区副議長佐々木祐誓▼碧南市土谷松治▼西尾市了願寺▼一色町神原工業神原将▼西尾市随縁寺▼幡豆町通因寺▼一色町明栄寺▼一色町吉崎礼二郎仏檀店▼一色町蓬萊泉取汲水野酒店▼一色町教栄寺▼一色町伴信治▼一色町伴繁夫▼一色町杉浦葬具生花店▼一色町三河屋葬具店▼西尾市お仏壇の円相小田康博(他に一万円未満の協賛者が多数ありましたが紙面都合上省略)

●編集後記

読んで頂けるか、反響はいかにと気にしていた創刊号が割に好評でまずは一安心▼ここで油断慢心は禁物とスタッフは一層張り切っています▼お読みになった感想などをお寄せ下さい▼新御堂も二年目のお正月(T)

「赤羽御坊」発行の協賛者を募集しています。

